

事業名 地域みらいづくりネットワーク構築事業

評価項目

No	項目	記入欄 内容が分かるように、 <u>200字以上～300字以内</u> で簡潔にまとめて記載してください。	自己採点
1	成果目標	高円寺地域の各団体からそれぞれが抱えている課題を集約し、高円寺地域の共有課題として地域住民へ配信した。自分たちの団体に抱えている課題が他の多くの団体でも抱えられていることが認識され、それらを解決していくための場が必要であると意見が一致した。また、団体同士のネットワークの必要性、情報を共有し発信していくことの必要性を認識し、その中心となるコーディネーターの発掘もできた。それぞれの課題に対して、行政が協働していく必要性も認識でき、自分たちのまちを自分たちで考えていく第一歩となった。なお、ネットワーク会議への参加状況はアンケート回答も含め約 60 団体、子どもたちのアンケート回収状況は概ね 100%、コーディネーターの発掘は 30 人となった。	4
2	市民性	高円寺地域の子育て世代が中心となった任意の NPO 等が呼び掛け、地域の青少年育成委員会や商店街連合会、そこに所属する NPO 等が一体となり、自分たちのまちづくりを考えるネットワーク構築を地域住民や NPO 等が中心となって行えた。また協議体に行政が加わることで、いままでの行政主導だったまちづくりや様々な施策に対し、地域が主体となって行うまちづくりの必要性を NPO 等・行政とも認識した。地域の NPO 等が集う場をつくることで、様々な人たちが集まり、そこから自然とネットワーク構築ができ、そこに集まる地域住民がコーディネーターの役割を果たした。まさに、NPO 等に属する地域住民の市民性を呼び起こしたと思える。	5
3	波及効果	本協議体から地域の課題を情報発信することで様々な関心を持ってもらった。また、その解決に向けた提案を数多く頂くことができた。例えば、地域のため空き店舗を活用したいがノウハウと資金がないと言った提案には、コーディネーターが場をまとめ、商店街関係者が産業振興を活用し活性化に務め、地域の若手世代が運営や企画を提案していくといった、まさに本事業のネットワーク化から生まれたものが、すぐに具体化してきたと言える。その他、情報を常に交換していく地域の動きや、イベントなどの共同開催などの提案もあった。次年度もこのモデル事業を続けるための予算組みを行政が取り組んだことも大きな波及効果と思える。高円寺地域の NPO 等の特性を理解したうえで、どういう方法がネットワーク構築に有効か地域の NPO 等が共に考えることが未来のまちづくりへと繋がったと思う。	5

新しい公共の場づくりのためのモデル事業 自己評価シート

4	継続性	<p>本協議体の事業は高円寺地域のネットワーク構築が目的であり、今後さらに密にしたネットワークづくりを進める必要があると考えられる。今年度行った事業により多くの地域住民が関心を持ち、関心をもった方々がコーディネーターとしてネットワークを広めていく。行政からはこのネットワークが行う様々な活動ごとに、所管の予算をもって対応いただき、地域住民が主体となって行うまちづくりへと引き継がれる。今後も地域住民が行うまちづくりに向け、構築されたネットワークが継続されていくものと思う。</p>	5
5	マルチステークホルダー・プロセス	<p>本事業体のステークホルダーは高円寺キャビネット（子育て世代の保護者有志）と高円寺北青少年育成委員会（高円寺北地区地縁団体、地域協力者、学校関係者など）、中央青少年育成委員会（同高円寺南地区）、高円寺商店街連合会（高円寺地区 14 商店街）。こうしたそれぞれ目的をもった団体が、それぞれの特性を生かし高円寺地域全体の地域住民への情報発信ができた。この取り組みを杉並区（地域課）、杉並区教育委員会（学校支援課）が協働して行うことで地域のニーズを施策に生かしたまちづくりのモデルができた。特に高円寺は JR 中央線の南北での歴史や文化の違いを互いにリスペクトしながら、高円寺のまちづくりに取り組むきっかけになった。</p>	5

合計点

24

ランク

S